

令和3年度における「ひろしま版ネウボラ」の取組について

令和3年3月3日
子供未来応援課

1 趣旨

「ひろしま版ネウボラ」を令和3年度から13市町に拡大するに当たり、目指す姿である「子育て家庭の安心感の醸成」に向けて、これまでの取組を踏まえ令和3年度において重点的に実施する取組を整理するとともに、効果検証について、目指す姿に至る過程についても検証できるよう、従来の方を見直し実施する。

※「ひろしま版ネウボラ」導入状況

導入済市町（6市町）：尾道市・福山市・三次市・海田町・府中町・北広島町

令和3年度導入予定市町（7市町）：呉市・竹原市・府中市・庄原市・熊野町・世羅町・神石高原町

2 これまでの取組における課題

「子育て家庭の安心感の醸成」に向けて、あるべき機能と体制を整理した「ひろしま版ネウボラ基本型」を6市町において実施してきた。今後、更に支援の根幹となる「全ての子育て家庭の状況把握」を効果的に実施するための仕組みを構築する必要がある。

また、効果検証では、従来は最終指標（子育て家庭の安心感の醸成）を中心に測定しており、各取組の最終指標への寄与度が不明確であったため、取組の効果を検証しやすい指標を設定し、検証結果を各取組の改善につなげる必要がある。

3 令和3年度における取組

(1) 重点的取組

全ての子育て家庭の状況を把握するためには、定期面談未実施者に対して行政からアプローチすること、また、定期面談以外での子育て家庭と接点があり得る関係機関（医療機関や保育機関等）から確実に情報提供を受けることが有効である。

そこで、「完全な全数把握」及び「関係機関連携」の2項目に重点を置いて取り組む。

取組	現状	取組内容	モニタリング指標
完全な全数把握	定期面談の機会において子育て家庭の状況を把握するとともに、来所促進の取組を行っているが、一部の子育て家庭が来所せず、状況把握ができていない家庭がある。	定期面談未実施者への対応を整理し、一定期間内に全ての家庭の状況を把握できる仕組みを構築する。	子育て家庭の状況把握率
関係機関連携	医療機関や幼稚園などの関係機関が子育て家庭の状況を市町に提供するためのルールが明確ではない。	情報提供すべきリスク度合いの基準を定め、それを関係機関と定期的に共有する仕組みを構築する。	関係機関からのリスク家庭に関する情報提供率

(2) 効果検証

各取組における中間指標を新たに定め、「子育て家庭の安心感の醸成」に寄与しているかを検証する。
(主な指標)

取組	中間指標	最終指標（安心感の醸成）
定期面談	・面談未実施者へのアプローチによるその家庭のリスクの減少率 ・面談による子育て家庭のリスクの減少率 ・面談による子育て家庭の不安感の減少率	・安心して妊娠・出産・子育てができていると思う親の割合 ・妊娠・出産に満足している親の割合
関係機関連携	・情報提供を受け支援を行ったリスク家庭と、情報提供が無いリスク家庭の不安感の高さ	・育てにくさを感じた際に解決方法を知っている親の割合
担当のネウボラ相談員の明示	・担当者の認識率	・要保護・要支援児童・特定妊婦の割合

4 今後の方向性

検証の結果を毎年度報告するとともに、「ひろしま版ネウボラ基本型」の強化・改善につなげる。